



お・じ・えの花束

雲 晴

春彼岸号

「雲 晴」 第二十二号

平成二十九年三月一日発行

貞林院瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五-一四六-一五
FAX (03) 3627-3415
五九九一五九一五

三人の天使



地獄に落ちた罪人を裁くのは閻魔大王です。
罪人に閻魔さまがおたずねになります。

「お前は人間界にいたとき、三人の天使に
会わなかつたか？」

罪人が恐る恐る答えます。

「会いません。もし天使にお会いしていら
ら、いまごろ地獄へ落ちたりはしませんでし
ょう」

「では聞くが、杖にすがつて歩く老人に会
わなかつたか？ 病気にかかり、寝つきりの
気の毒な病人に会わなかつたか？ 死んだ人
に会つたことはなかつたか？」

「大王さま、老人・病人・死人ならばいや
というほど会いましたが、天使には……」
「その老人・病人・死人こそが三人の天使
であったのだ！」

これを聞いて驚く罪人に、閻魔さまは次の
ようにおさとしになります。

「お前は老人という天使に会いながら、や
がて自分も老いてゆくことに気がつくことも
なく、老人はきたないとののしつた。

病人という天使に会つても、自分もいつか
は病気になるときがくることを思わず、病
人に對してやさしい言葉一つかけなかつた。

そして身をもつて死を教えてくれた死人と
いう天使に会つたとき、やがては自分も死ん
でゆかねばならぬ身である、せめて生きてい
る間に少しでもよいことをしようという努力
もせず、自分だけはいつまでも生きているよ
うに思つて、死ということを全く考えなかつ
た。

その報いを受けて、いまお前は地獄へ落ち
てきたのだ。地獄へ落ちたからといって、人
をうらんではならない。もしうらむのであれ
ば、生前になさねばならぬことをなさなかつ
た自分自身をうらんで反省することだ！」

この話は『阿含經』という古いお経の中に
出てくるのですが、とても明快に私たち凡夫
へ、老・病・死の連れ得ぬ大事について教え
ています。

過日、小学校六年生の生徒が六十数名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。当寺が家光ゆかく前でもありました。

名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。

名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。

一口法話

名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。当寺が家光ゆかく前でもありました。

名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。当寺が家光ゆかく前でもありました。

名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。

名当寺に参りました。それは六年生の歴史の授業で徳川家光公の事を勉強している頃で、丁度修学旅行で日光に行く前でもありました。

「ほめて育てる」

西門寺住職 烏崎義宣

りの寺である事から、この何年か続いて来ています。

六十名余りの生徒が集まるとさぞうるさい事と思われますが、すごくおとなしく礼儀が良く、明るい笑顔に会え

引き出し、教えていくと聞いています。また親達の子育てについてもご指導して頂いているそうです。

先生も大変ですね。「三つ子の魂百まで」ということわざがありますが、三

員会と学校長の委嘱にて行われているものです。学校における諸問題、色々と考える場所として毎月集まって意見交換を行っています。私もその一員として微力ですが協力しております。ま

た今年も元気な子供達に会いたいです。

今、小学校の中には「学校づくり委員会」という会が出来ています。教育委員会と学校長の委嘱にて行われているものです。学校における諸問題、色々と考える場所として毎月集まって意見交換を行っています。私もその一員として微力ですが協力しております。ま

た今年も元気な子供達に会いたいです。

ジョギング念佛

以前「ためしてガッテン」というテレビの人気番組の中で、スローゾギングというのがありました。普通のジョギングとちがって、ゆっくりと歩幅を小さく、足音も小さく走ると疲れやすい白い筋肉を使わずに、持久力のある赤い筋肉だけを鍛えることが出来るのです。三十分も走ると汗が出るくらい身体は温まりますが、確かに息切れはしません。

近づいて、そつと窓障子（まどし）の破れ穴から中をのぞいて見ると、婆さんが一人おつて、糸車をまわして、糸をくつていた。仁王様は、初めて見る景色が何ともいえず珍らしい。

「ふーん、何やらブンブン廻（ま

むかし、ある寺に仁王門（におうもん）があつて、その中に大つきな仁王様がござらつしやつたそうな。

仁王様は一日中、夜も昼も休むひまなく仁王門の中で立ち続けているので、退屈で退屈でしかたがなくなつてしまつたそうな。

そこで、ある晩のこと、

「朝から晩まで立ちっぱなしや、おもしろくないな。なあに、夜くら

いは誰れにも見られんから、ちつとは遊びに出かけてもよからう」といって、お寺の周囲（まわり）を夜廻りを兼ねてぶらついたと。

「おお、こりや、ええ。凝り固まつた身体が段々ほぐれて、新たな力がみなぎつてくるのが、ようわかるわい」

お寺が村はずれにあつて、誰れにも見られないのをいいことに、それか

りがともつてゐる家があつた。

近づいて、そつと窓障子（まどし）の破れ穴から中をのぞいて見ると、婆さんが一人おつて、糸車をまわして、糸をくつていた。仁王様は、初めて見る景色が何ともいえず珍らしい。

或る朝、自分がお念佛を唱えながら走っていることに気付きました。そういうれば足音が木魚のリズムに似ています。だから自然に、法然上人が勧められた何處でも何時でも、どのような姿でものお念佛が申せたのだと思います。

多くは健康のために走つておられるが、私はお念佛を申すために走るのだと承け留めて、お念佛がジョギ

民話の小箱（青森県）



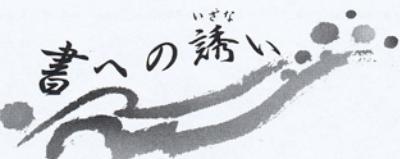
『仁王か』・早合点

ら毎晚出歩くようになつたと。

そのうちに、だんだん遠くの方まで遊びに行くようになつて、人家のある所までやつて來た。すると、真夜中だといふのに一軒だけ灯（あか）りがともつてゐる家があつた。

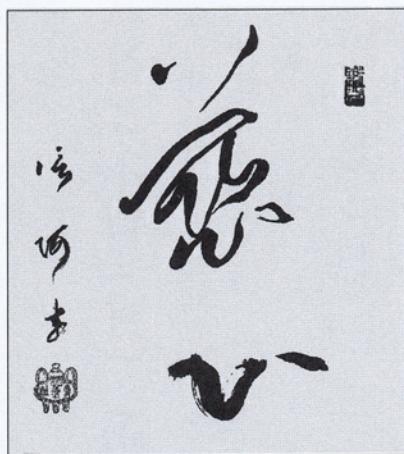
近づいて、そつと窓障子（まどし）の破れ穴から中をのぞいて見ると、婆さんが一人おつて、糸車をまわして、糸をくつていた。仁王様は、初めて見る景色が何ともいえず珍らしい。





「慈心」

故林 錦洞書



佛教でいう慈悲は、仏や菩薩が人々に樂を与えるのが「慈」で苦しみを取り除くのが「悲」です。

草書の柔らかな線で書かれ、ぬくもりを感じさせるこの作品は「慈心」と読み、「いくつしみのこころ」という意味です。

左横には「信阿書」その下の落款には右から左に「専蓮社」と彫られており、これは先代錦洞の僧侶としての名前「専蓮社行譽信阿上人」から記されているのです。

現代社会は人との関わりが希薄となり、他人だけでなく親子・兄弟・夫婦でさえもお互いにいたわりの心が欠けてきているように思われます。そのような人たちの周りには様々な苦しみを背負っている人たちが大勢います。その人々を何とか少しでも楽にしてあげたいと思う心が「慈のこころ」です。思いやり、いたわりの言葉、ちょっととした気遣いなど誰にでもできる行為ではないでしょうか。

百万遍のお念仏もこの「ジョギング念佛」ならばほぼ二年半で達成できる勘定になります。ジョギングも出来、百万遍のお念仏が申せたという喜びも実感できます。毎朝の日課念佛として、ジョギング念佛もお勧めいたします。

と、ふしぎそうに眺めていると、婆さんは、糸車をまわしながら、片っぽうの尻（しり）をひよいと持ちあげて、大つきな屁を、ブフワーンとこいた。

思いがけないことで、仁王様が思わず笑うと、婆さんは誰か村の人かと思つて、

「おうおう、匂（にお）うか」と聞いた。
仁王様はこれを、「仁王か」と言つたのだと早合点して、さあ、魂消した。

「やつ、わしが隠れていることを、

そればっかり。



ングを励まし、ジョギングがお念佛を励ます「ジョギング念佛」を長年継続しています。一コース、三分で三六〇歩、木魚のリズムよろしく三歩で一回の念佛、約一二〇回のお念佛になります。それを一〇回繰り返して三〇分の日課念佛です。段々ふくらはぎにも張りができ、お腹周りも締まりました。

総本山知恩院布教師会ホームページより

春の彼岸法要ご案内

春の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

三月二十日(月) 正午より

彼岸法要は中日の正午に先祖代々のご回向をいたします。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

**塔婆料 三千円
回向料 志納**

「ご紹介します」

「こちらのお寺さんはいつも綺麗に掃除が行き届いていて、お蔭さまで気持ちよくお参りすることができます。」

というお褒めの言葉を頂くことがあります。よくお坊さんの修行は一に勤行、二に掃除などと言われますが、住職としては大変嬉しいお言葉です。

寺の清掃はもちろん住職をはじめ副住職や家内も掃除や草取りなどもしていますが、他にも仕事は多く、なかなかすべてに手が回りません。そこで現在お墓などの清掃をお願いしている方は「葛飾区シルバー人材センター」よりご紹介いただいた古越学さん(七十歳)です。

「古越さんです」



(歳)

勤務され、添乗員として世界中を飛び回っていた経験の持ち主です。現在は退職され、趣味である家庭菜園の知識を生かして「葛飾区農業サポート」として子供たちに野菜作りなどを指導されています。



「参道もお墓もいつもキレイです」

古越さんは株式会社JTBに長い間勤務され、添乗員として世界中を飛び回っていた経験の持ち主です。現在は退職され、趣味である家庭菜園の知識を生かして「葛飾区農業サポート」として子供たちに野菜作りなどを指導されております。

平成二十七年十月より週に二回の契約でお願いしておりますが、本当にいつも熱心な仕事ぶりで助かっています。

清掃の他に植木の剪定などは年に四五回植木屋さんにお願いしていますが、これらは毎年納めていただく寺の護持会費で賄われています。

これからも檀信徒の方々が気持ち良くお参りできるような寺づくりを目指していくので、ご協力をお願ひいたします。

これらは毎年納めていただく寺の護持会費で賄われています。

◇これも仏教用語なの? ◇
「無垢」
けがれのない純真なことを「無垢」と言いますが、仏教では「煩惱やけがれのない清らかな状態」をさす言葉です。また、そこから転じて煩惱を滅した存在「仮」を指して使われることもあります。

仏教には煩惱によって覆われているが、人は誰しも仏となれる性質(仮性)を具えている、という考え方があります。この仮性を覆う煩惱を修行で取り除き、「無垢」な状態となることが仏教の一つの目標です。

もつとも現世を生きる私たちが煩惱を完全に取り去り「無垢」となるのは難しいことですが、自身の中にある善い心は育んでいきたいですね。

(参考資料・浄土宗新聞「くらしの中の仏教語より」)

施餓鬼法要のご案内

本年の施餓鬼法要は五月十四日(日)に厳修いたしますのでご予定下さい。ご案内につきましては、あらためて四月に発送いたします。

